

海員春闘 [中央交渉] 内航交渉委員会 内航二団体 (内航労務協会・一洋会)

第1回目からこれまでの経過

第1回交渉 3月2日

内航二団体との第1回交渉は、14時30分から開催した。交渉委員会は組合側幹事の司会で始まり、労使双方の交渉委員を確認した後、船団側を代表して船主団体内航労務協会の福田和志会長、組合側を代表して松浦満晴組合長がそれぞれあいさつを行った。

次に交渉委員会運営を確認した後、組合側から要求について趣旨説明を行い、船団側から、今次労働協約改定に関する申し入れはないとの報告がなされた。

交渉では組合側から、組合要求に対する考え方を質したところ、船団側は、世間の状況を踏まえながら組合要求を真摯に受け止め、期限内自主円満解決に向け検討したい。また、年間臨時手当の同時決着について、船団側は異論ないとした。

最後に「有効期間」については本日段階で仮合意とし、次回交渉を3月11日に関西地方支部で開催することを確認し、第1回交渉を終了した。

第2回交渉 3月11日

第2回内航交渉委員会は、3月11日の14時から、海員組合関西地方支部大会議室で開催、第1回交渉で仮合意した「有効期間」を除く組合要求について逐条審議を行った。

船団側は、組合要求の基本給について賃金改善の必要性は理解しているものの、昨今の世界情勢は大きく変化しており、原油価格の高騰など先行き不透明な状況にある。また、過去3年間、満額回答を行っている中、組合要求は昨年以上の高水準で、検討する時間が必要なため、本日時点での回答は難しいとの考え方を示した。

これに対し組合側は、世間の情勢や人材確保の観点からも大幅な賃金改善は必要不可欠であり、内航海運の船員としてあるべき賃金を要求していることを主張し、前向きな回答を示すよう求めた。

第3回交渉は3月18日に開催、第4回交渉を3月24日に開催したが、組合要求の「長期乗船慰労金」「基本給」について、具体的回答を示さない船団側の姿勢をただし、議論は平行線をたどったため、船団側に解決に向けた鋭意検討を行い次回交渉に臨むよう求め、第4回交渉を中断終了した。

「海員だより」